

火災警報器設置を推進 5月 30日



千代田庁舎防災センターで研修を受ける消防団員

消防本部では、平成23年5月末までに設置が義務付けられている住宅用火災警報器の普及率向上のため、消防団員を対象に研修会を実施しました。市内での普及率が低い水準にある現状に、真剣な表情で聞き入っていました。

高崎将典さんに感謝状 5月 7日



丸の内消防署長から感謝状を受け取る高崎さん(右)

4月24日、JR東京駅のホームから転落し受傷した男性を救助した田伏の高崎将典さん(28)が、丸の内消防署から表彰されました。高崎さんは、「女性の叫び声で男性が転落するのに気づき、とっさにホームに助けに降りた」と振り返っていました。

雨の中にも親子の歓声響く ～雪入川親子釣り大会～ 6月 5日



本日初めてのニジマスに喜ぶ久保田勝さん、悠くん親子「全部で26匹釣りました。」



傘をさしながらウキを見守る参加者

市子ども会育成連合会の主催で「親子釣り大会」が今年も雪入川で開催されました。当日はあいにくの雨で1時間遅れの開始となりましたが、262人の親子が参加してにぎわいました。降雨の影響で川が濁り、なかなか釣れない時間が続きましたが、20匹以上を釣り上げた親子もいました。また、水門を上げ、網で魚をすくうなど、子どもたちから歓声も聞こえ、親子の絆を深められた楽しい大会となりました。

ジャガイモの茎からミニトマト!? ～わかぐり保育所～ 6月 25日



収穫したジャガイモと実を見せてくれた年長の小島梁くん(右)と増田政哉くん

「ジャガイモの生育状態を見に行ったらミニトマト? が付いていた」という珍事件がわかぐり保育所の農園で発生。直径2センチメートル近い実が、ジャガイモの茎のところどころになりました。県の園芸研究所によると、「キタアカリやキタムラサキなどの品種によって、ミニトマトに似たジャガイモの実をつける場合がある。男爵イモやメークインが一般的なので、実はあまり見られない。色は緑色のままで食べることはできない。」と話しています。ジャガイモは、食育の勉強で今年3月に現在の年長の子どもたちが園内に植えたもの。子どもたちもミニトマトに似た実を不思議そうに眺めていました。



「市の魅力を学び、伝えていきたい」

～新たに9人が市民学芸員に～

6月 29日



1期生・2期生初の合同定例会(歩崎公園ビクターセンター)

市民学芸員養成講座を6月15日から5日間郷土資料館で開催し、6月29日9人に修了証を交付しました。講座は、市内の考古、歴史、民俗、自然、観光の5分野から市の魅力を学習し、自分たちでまちを盛り上げたいというリーダーを育成するため、昨年から始めたものです。既に15人が1期生として、郷土資料館の団体来客の案内、イベントの補助をはじめ、水戸街道や雪入山・浅間山の総合調査、帆引き船の基礎調査をするなど活発に活動されています。2期生に認定された齊藤順子さん(下稲吉)は、「市内の遺跡発掘の手伝いから、市にも遺跡などの魅力がたくさんあると知りました。今回は、もっと市の魅力を発見したいと思い応募しました。活動を通して市民の輪が広がれば素晴らしい。」と期待を胸に話してくれました。また、1期生の宇都木直直さん(田伏)は、「1期生2期生が協力して市を盛り上げていきたい。心強い仲間が増えました。」と歓迎しました。

千代田ファイターズが関東大会で悲願の初優勝

6月 26・27日



決勝戦が行われた江戸川臨海球場で優勝を喜ぶメンバー

baseballs 第28回関東ブロック大会で千代田ファイターズが悲願の初優勝。7月22日に東京で行われる全国大会へ出場することとなりました。同クラブは、千代田地区の1年生から6年生まで31人で構成。関勝利監督は「保護者の熱い声援のもと、チームが1丸となったことが勝因」。キャプテンの藤関航平くん(新治小)は、「全国大会では、チームワークを大切に、練習の成果を出し切りたい」と意気込みを話してくれました。